

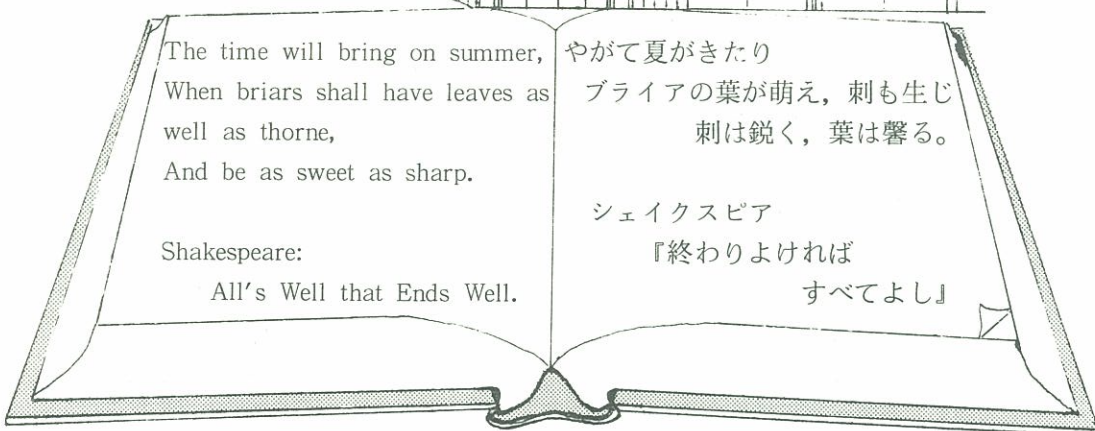
図書館だより

第3巻2号

□通巻78号□

1981夏季号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library



目次

昭和五十五年度学生利用状況

蔵書印(角印)の廃止について

昭和五十五年度図書受入状況

閑想欲談 [Law School]

吉田 敏雄

新着案内

▼書評

経済学関係

エコノミスト

美馬 孝人

法律学関係

ジュリリスト

藤原 雄三

工学関係

テクノロジスト

高橋 義裕

教養関係

ユマニスト

世戸 憲治

「図書館だより」アンケート調査結果報告

レファレンス・コーナー

欧文和語「可、不可」

山口 修司

キーワード「ストレッチ体操」

エアメール (5) 「北京の四季」

西川 博史

孤独な支配者

昭和五十五年卒業

坂下恵理子

マイクロコスモス

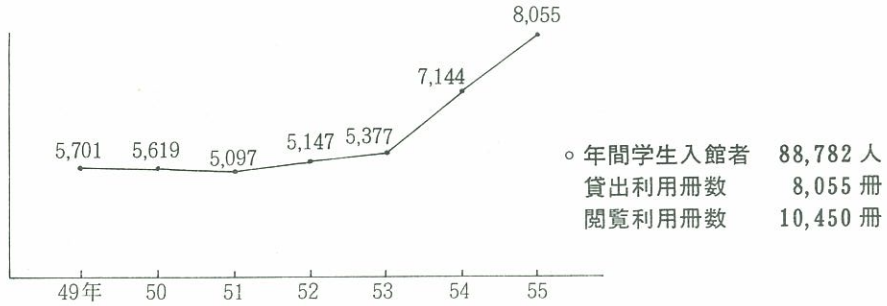
ホームズ著『英米法論』

菅原 勝伴

編集後記

昭和55年度 学生利用状況

○ 最近7ヶ年間 — 貸出冊数の推移



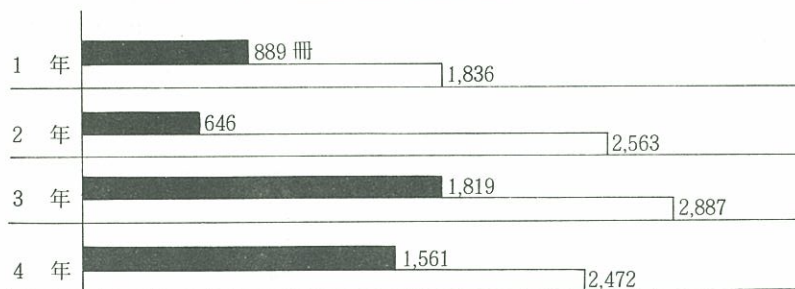
○ 分野別 — 館外貸出利用度の高いものベスト5

順位	分野	冊数	順位	分野	冊数	順位	分野	冊数
1	経営学	502	1	法学概論	289	1	文学	569
2	経済思想	355	2	民法	272	2	哲学	420
3	商業学	267	3	行政法	251	3	歴史	388
4	経済史	169	4	訴訟法	185	4	自然科学	236
5	経済学概論	133	5	刑法	88	5	総記	222

○ 新刊雑誌 — 閲覧利用度の高いものベスト5

順位	経済関係	法律関係	教養関係	工学関係
1	エコノミスト	法学セミナー	アサヒカメラ	新建築
2	東洋経済	ジュリスト	山と溪谷	都市住宅
3	マネジメント	法律時報	プレジデント	建築文化
4	経済評論	判例時報	モーターファン	S D
5	経済セミナー	判例タイムズ	文芸春秋	Bit

○ 利用者の学年別 閲覧 貸出 (本館のみ)



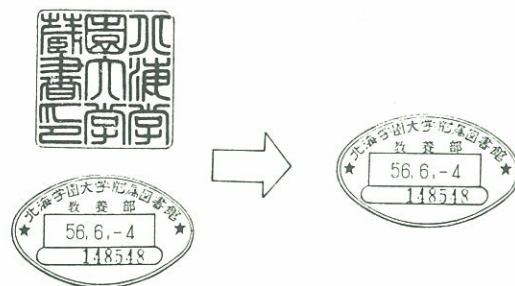
お知らせ

長期貸出と時間短縮

貸出月日：7月6日(月)～9月3日(木)
返本月日：9月4日(金)
貸出冊数：1人2冊
開館時間：7月16日(木)～9月3日(木)
月～金曜日：9時30分～18時30分
土曜日：9時30分～15時
工学部：木曜日開館：9時30分～17時

※9月8日(火)より定期試験終了まで図書の貸出はいたしません。

蔵書印（角印）の廃止について



昭和55年度図書受入状況

図書受入冊数 17,160冊

	購入	補助金	編入	寄贈	合計
和書	6,726	152	951	4,471	12,300
洋書	2,516	917	703	724	4,860
計	9,242	1,069	1,654	5,195	17,160

雑誌受入種類 2,114種

	購入	寄贈	合計
和雑誌	320	1,403	1,723
洋雑誌	289	102	391
計	609	1,505	2,114

図書館では、少しでも早く図書を皆さんに利用していただくよう、整理作業の改善について、いろいろ研究いたしております。

さきに目録カード複写機（U-Bix hicard LII）導入により、今まで手刷りの謄写版で1枚ずつ刷っていたのを、必要枚数をセットすることにより、手早く、きれいに印刷することが出来るようになりました。さらに能率をあげるため、現在手で書いている目録カードを印刷カード（国立国会図書館発行）に切りかえたいと整理係で、検討中です。なお蔵書印（角印）の廃止についても、以前より問題になっており、すでに他大学でも、受付印等にかえていたところも多くなって居ります。

当館でも廃止については、支障ないと考えられますので、本年度より受付印のみに切りかえました。これにより、従来標題紙に検印の際、文字をかくさぬよう苦勞していたことも解消され、また登録係の作業の省力化にもなり、多少でも能率が上がることと期待して居ります。

閑想歓談

『Law School』

立花書房 月刊雑誌

法学部助教授 吉田敏雄

本誌は1978年10月に創刊された法律雑誌である。本誌は、講義の時間的制約、口頭による伝達といった不完全を補充するのに十分な内容をもった実務家、学生向学習雑誌である。とはいえ、執筆陣は我が国の指導的及び少壮気鋭の学者からな

っている。社会現象の法律の角度からの解明を志す者、法律関係の仕事に携ることを志す者の必携の雑誌といえよう。残念ながら、予算の都合からか、本学図書館には収納されていない。

（よしだ としお・刑法）

新着案内

経済関係

(昭和56年1月以降に整理された学生用図書の一部です)

現代経済学 — その現状と展望 — 伊東光晴 新
飯田宏編 日本評論社 1980 331.01 I 89

世界的規模における資本蓄積 2 S. アミン著
柘植書房 1979 331.48 A 45

消費構造と物価 辻村江太郎著 勁草書房 1968
331.7 Ts 44

世界経済のなかの日本経済 竹内宏 松永嘉夫編
有斐閣 1979 332.1 Ta 67

西欧世界の勃興 D. C. ノース. P. R. トマス著
京都 ミネルヴァ 1980 332.3 N 96

英・米比較経済史 G. M. ホームズ著 京都 ミ
ネルヴァ 1979 332.33 H 83

欧州共同体(EC)の研究 — 政治力学の分析 — 細
谷千博 南義清編 新有堂 1980 333.6 H 95

世界経済学 森本憲夫著 中央経済社 1975
333.6 Mo 45

現代国際経済論 柴田政利編著 学文社 1980
333.6 Sh 18

アメリカ資本主義史論 森杲著 京都 ミネルヴァ
1976 333.953 Mo 45

現代総合商社論 商社機能研究会編 東洋経済
1975 335.4 Sh 96

日本商社史 梅津和郎著 実教出版 1976
335.4 U 74

フリードマンの貨幣理論 R. J. ゴードン編 グ
ロウヒル好學社 1978 337.1 G 67

貨幣・鑄貨論 J. ハリス著 東大出版会 1975
337.1 H 33

日本の証券市場 — 証券恐慌以後 — 川合一郎
編著 東洋経済 1979 338.14 Ka 93

イギリス金融史研究 神武庸四郎著 御茶の水書
房 1979 338.233 Ka 31

日本の多国籍企業論の展開 多国籍企業研究会編
著 京都 法律文化社 1979 338.38 Ta 73

現代国際金融の構造 今宮謙二著 実教出版
1976 338.9 I 44

現代資本輸出論 辻忠夫著 御茶の水書房
1979 338.92 Ts 11

保健の経済学 前田信雄著 東大出版会 1979
339.01 Ma 26

地域社会論 蓮見音彦, 奥田道人編 有斐閣
1980 361.48 H 39

情報の経済理論 野口悠紀雄著 東洋経済
1974 401.4 N 93

基本商品知識 出生正芳著 白桃書房 1978
674.1 D 65

企業会計総論 江村稔著 森山書店 1979
679.01 E 55

税務会計通論 武田昌輔著 森山書店 1979
679.8 Ta 59

◇ = ◇ = ◇ = ◇ = エコノミスト = ◇ = ◇ = ◇ = ◇

◇ 上野英信著 ◇

◇ 『地の底の笑い話』 ◇

◇ 岩波新書 1967年5月刊 ◇

◇ 「高度成長」を経過したわれわれは、以前、
◇ 特に第2次大戦敗北前に、今では想像もでき
◇ ないような悲惨な民衆像があったことを忘れ
◇ ている。原爆にやられた著者はその生の証に
◇ 炭坑で働き、そこでの事実と言い伝えを記録
◇ した。本書は『追われゆく坑夫たち』と共に
◇ 最近また入手可能となったので、彼の「詩的
◇ 表現」によってはじめて把握しえた坑夫の現
◇ 実に多くの人が接してみたい。

◇ 著者は多くの坑夫達に接するまで、労働者
◇ の歴史や思想や人間そのものについて無知で
◇ あったも同然だと述べている。

◇ (美馬孝人 経済学部教授) ◇

◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇ = ◇

- ファッションの現在 浅沼和典 河原宏 柴田敏夫 324.7 I99
編 新評論 1980 311.9 A87
- ファッションを語る R. デ・フェリーチェ著 京都
ミネルヴァ 1979 311.9 D53
- 民主主義からナチズムへ R. ヘベルレ著 御茶
の水書房 1980 311.9 H51
- ファッション — その比較研究のために — 山
口定著 有斐閣 1979 311.9 Y24
- ドイツ社会民主党とカウキーマー 山本佐門著 札
幌 北大図書刊行会 1981 315.34 Y31
- 法哲学 — 法の二元的構造 — J. ヨンバル
ト 金沢文雄著 慶應通信 1971 321.1 L76
- 石井良助先生還暦祝賀法制史論集 滋賀秀三・平
松義郎編 創文社 1976 322.04 I75
- 民法論綱 卷1-6 J. ベスサム著 同著者
1876 324.01 B35
- 親子の法律 太田武男 久貴忠彦著 新版 有斐
閣 1980 324.63 O81
- 相続・贈与 — 紛争防止に役立つ法律と税の知
識 — 泉久雄〔等〕編 有斐閣 1980
- ◇=◇=◇=◇ ジュリスト ◇=◇=◇=◇
|| 平出慶道著 ||
|| 『株式会社設立』 ||
|| 有斐閣双書 昭和42年5月刊 ||
|| 株式会社の設立手続が開始されてから会社 ||
|| が成立する迄の間、「発起人組合」と「設立 ||
|| 中の会社」とが併存するとみる見解は、現在 ||
|| では通説になっている。しかし、「設立中の ||
|| 会社」の存在が認められるようになったのは、 ||
|| 比較的最近のことである。本書は、「設立中 ||
|| の会社」の存在を主張し、それを認めさせる ||
|| ことに貢献した平出教授が、株式会社の設立 ||
|| に関する基本的考え方を明らかにし、現行法 ||
|| の解釈論を展開した労作である。法学部・経 ||
|| 済学部の学生諸君に精読を奨めたい。 ||
|| (藤原雄三 法学部教授) ||
◇=◇=◇=◇
- 判例教材刑法各論 平野龍一編 東大出版会
1980 326.098 H66
- 刑法綱要 — 総論 — 団藤重光著 改訂版
創文社 1979 326.1 D36
- 社会防衛原理 F. グラマティカ著 成文堂
1980 326.3 G77
- 罪刑法定主義 大野真義著 世界思想社 1980
326.4 O67
- 死刑廃止宣言 死刑廃止をすすめるつどい編 三
一書房 1980 326.41 Sh33
- 日本の矯正と保護 1. 行刑編 有斐閣 1980
326.5 N77
- ジャスティス 横川敏雄著 日本評論社 1980
327 Y76
- 民事訴訟法を学ぶ 竹下守夫 谷口安平編 有斐
閣 1977 327.2 Ta65
- 破産法概説 — 倒産処理法の基礎 — 青山善
充〔等〕著 有斐閣 1979 327.36 A58
- 刑事訴訟法 庭山英雄著 日本評論社 1977
327.6 N89
- 捜査と人権 日本弁護士連合会編 日本評論社
1975 327.63 N77
- 少年法概説 菊田幸一著 有斐閣 1980
327.68 Ki29
- ワークブック国際法 大寿堂鼎 波多野里望編
有斐閣 1980 329.01 Ta22
- 末弘〔徹太郎〕博士記念論文集 平野義太郎〔等〕
編 第2版 日本評論社 1980 366.04 Su16
- 官公労働法の基礎 青木宗也 中山和久編 青林
書院新社 1980 366.1 A53

新着案内

— 工 学 関 係 —

丸善対数表 — 七桁 — 第17版 丸善
1974 418.4 Ma59

境界要素法入門 C. A. プレビア著 培風館
1980 421.46 B72

不静定構造力学 高岡宣義著 共立出版 1978
501.34 Ta49

建築土木荷重便覧 羽倉弘人〔等〕編 オーム社
1976 501.5 Ke41

土木工学における岩盤力学概説 飯田隆一著 彰
国社 1978 511.3 I26

地すべり・崩壊・土石流 — 予測と対策 —
小橋澄治〔等〕著 鹿島出版会 1980
511.34 Ko11

土木材料実験指導書 — 基礎編 — 土木学会
編 同編所 1980 511.4 D81

土木材料実験指導書 — 基礎編・応用編 —
土木学会編 同編所 1980 511.4 D81

コンクリート便覧 日本コンクリート工学協会編
技報堂 1978 511.7 C86

コンクリート・セミナー1 コンクリートの特性
共立出版 1975 511.7 C86

繊維コンクリート D. J. ハナント著 森北出版
1980 511.7 H29

ノモグラムに依る鉄筋コンクリートの計算 柴田
直光著 第14版 理工図書 1980 511.7 Sh18

鉄筋コンクリートの新しい計算図表〔R G〕 上
前行孝〔等〕著 近代図書 1979 511.7 U41

コンクリート配合設計指針 米国コンクリート協
会編 国民科学社 1975 511.72 B32

図表による鉄筋コンクリート断面計算法 武田英
吉著 増補8版 丸善 1975 511.78 Ta59

わかりやすい橋の設計手ほどき 河村協著 改訂

8版 工学出版 1980 515.1 Ka95

道路橋の横分配実用計算法 前編, 後編 高島春
生著 現代理工学出版 1975-76 515.1 Ta54

わかりやすい橋台橋脚の設計計算例及解説 下部
構造研究会編 現代理工学 1979 515.2 Ka11

道路橋示方書・同解説 — 昭和55年5月 —
日本道路協会編 第2版 同編所 1980
515.2 N77

コンクリート構造設計資料 コンクリート構造設
計研究会編 技報堂 1976 516 C86

建築構造計算シリーズ 4. 鉄筋コンクリート構造
の設計 丸善 1980 524.08 Ke41

鉄筋コンクリート断面計算図表 安藤三郎著 理
工図書 1974 524.7 A47

構造物の動的解析 武藤清著 第2版 丸善
1974 524.91 Mu93

構造物の強度と変形 武藤清著 第2版 丸善
1974 524.91 Mu93

構造力学の応用 武藤清著 第2版 丸善
1974 524.91 Mu93

◇=◇=◇=◇ テクノロジスト ◇=◇=◇=◇

◇ 八十島義之助他著 ◇

◇ 『土木工学通論』 ◇

◇ 技報堂出版 (1980年) ◇

◇ 本書は土木工学全般について、その専門家
◇ が各部門別に執筆し、広汎な土木工学につい
◇ ての知識を一冊に簡潔にまとめた解説書であ
◇ る。本学の土木工学科の学生はもちろん、土
◇ 木工学に興味のある学生にとっても土木工学
◇ の概要を知るうえでの適当な入門書といえる。
◇ 本書を手がかりにさらに専門的勉強に進むこ
◇ とにも十分配慮されている。また公務員試験
◇ 合格を目指す土木工学科の学生にとっても、
◇ 土木の各部門が正確にまとめられているので
◇ 有効に活用できるものと思われる。

◇ (高橋義裕 工学部講師) ◇

◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇

- 弁証法の論理 — 弁証法における体系構成法 — 波多野諠余夫編 東大出版会 1979 371.4 H42
 広松渉著 青土社 1980 116.4 H71
- ヨーロッパの哲学 上・中・下 H. グロクナー著 早稲田大学出版部 1965-1967 130 G52
- ゲシュタルト心理学 P. ギョーム著 改版 岩波 1980 140.17 G92
- 行動と脳 — 心理学と生理学 — 今村護郎著 東大出版会 1979 140.18 I44
- 知覚と論理 — 生れつきとは何か — 須賀哲夫著 東大出版会 1980 141.2 Su21
- キエルケゴールの宗教思想 E. ガイスマー著 東海大学出版会 1978 161 G32
- 愛とエゴイズム 八木誠一著 東海大学出版会 1979 191 Y15
- 共同研究明治維新 思想の科学研究会編 徳間書店 1967 210.61 Sh91
- 民族国家と民族自決 A. コバン著 早稲田大学出版局 1976 311.6 C81
- 自己学習能力を育てる — 学校の新しい役割 —
- ◇=◇=◇=◇ ユ マ ニ ス ト ◇=◇=◇=◇
 ◇ 坪井忠二・他21人著 ◇
 ◇ 『右と左』 ◇
 ◇ サイエンス社 55年9月刊 ◇
 ◇ トイレに入ってイザというとき、トイレッ ◇
 ◇ トペーパーが右側の壁についていて手がひね ◇
 ◇ れる思いをしたことはありませんか。我々が ◇
 ◇ 日常使う道具、電話器や車の運転席、小はハ ◇
 ◇ サミヤネジマワシにいたるまですべて右きき ◇
 ◇ 用にできているのです。 ◇
 ◇ 実はこの左右の違い、左ヒラメに右カレイ ◇
 ◇ のような問題から、原子、分子さらに素粒子 ◇
 ◇ の世界にまで横たわる大問題なのです。ここ ◇
 ◇ では22人の著者が、ガードナーの名著「自然 ◇
 ◇ 界における左と右」にも勝るとも劣らないお ◇
 ◇ もしろさで読む人をひきつけてくれます。 ◇
 ◇ (世戸憲治 教養部教授) ◇
 ◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇
- サイエンスライブラリ演習数学 9. 演習ベクトル 解析 サイエンス社 1980 410.8 Sc9
- 微積分の意味 森毅著 日本評論社 1978 413.3 Mo45
- 現代物理学の展望 — 東京大学教養セミナー — 和田昭允編 東大出版会 1979 420.1 W12
- 夜空の星はなぜ見える — 自然の論理 — 田中一著 札幌 北大図書刊行会 1973 443 Ta84
- 北海道の駅 日本放送協会北海道本部放送部編 楡書房 1980 686.8 N77
- 元祿演劇研究 松崎仁著 東大出版会 1979 772.1 Ma92
- フランス演劇史概説 岩瀬孝 佐藤実枝 伊藤洋著 早稲田大学出版部 1978 772.35 I96
- 詩的言語学入門 — 言葉の意味と情報性 — I. R. ガリペリン著 研究社 1978 801 G17
- ラールス言語学用語辞典 J. デュボウ〔等〕著 大修館 1980 803 L32
- 語順と文法 佐伯哲夫著 吹田 関西大学出版 1976 815 Sa14
- 英語史入門 H. E. Wilkinson 著 改訂新版 研究社 1978 830.2 W73
- ヨーロッパ世界の文学 内多毅著 東海大学出版会 1978 902 U14
- ヨーロッパ文芸批評史 V. ホール著 中央大学出版部 1979 902.3 H21
- 言語と文学にみる文明 根本騰子編 東海大学出版会 1978 904 N64
- 小林多喜二文学館 20冊 — 初版本による複製全集 — 小林多喜二著 ほるぷ出版 1980 918.6 Ko12

対話ひろめる「図書館だより」

I はじめての試み

「だより」も早いもので3年目の夏を迎えました。これより先冬のさなか実施したアンケート調査の結果がまとまりましたのでお知らせします。

初めての試みでしたが、サンプル数315人に対して23%強に当る73人が学部、学年ごとにはほぼ平均して回答をよせました。

これを整理したのが表1です。全体として、図書館をなんらかの形で利用している人は96%、資料を利用した人は82%でした。

表は学年が進むにつれて利用の度が高くなっていくことを示しています。

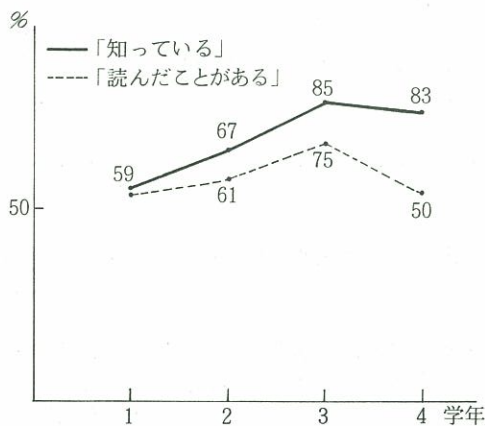
表1 学年別にみた利用の型

利用の型	学年	1	2	3	4	計
未来館群		1	—	2	—	3
自習利用群		4	5	1	—	10
閲覧利用群		11	9	10	5	35
貸出利用群		1	4	7	13	25
計		17	18	20	18	73

II 特に高い3年生の反応

「だより」を知っていると答えた人は全体で74% (54人)、「読んだことがある」と答えた人は62% (45人)で、学年別にみると、いずれも3年生の反応が特に高くなっています。

表2 学年別にみた反応度



これをさらに「利用群」別にみると図書館利用が高くなるほど反応の度も高くなっています。

表3 利用の型別にみた反応度

(A) 知っている	(B) 読んだことがある
(利用の型)	ある
0 未来館群	0
50% 自習利用群	50%
77% 閲覧利用群	68.5%
88% 貸出利用群	72%

III 定期読者は16% 160人ぐらい

「読んだことがある」と答えた人をさらによんだ頻度により3つのタイプに分けてみました。毎回読んで「超反応型」は16%、5~8回の「強反応型」は22%、1~3回の「微反応型」は62%でした。(1年生は別の基準)。毎号の発行部数は約1,000部(学生向け)でしたから、定期読者は160人ということになりそうです。

なお、調査の時点で「だより」の発行は10号でした。

表4 反応の型別にみた利用の型

	微反応型	強反応型	超反応型	計
未来館群	—	—	—	—
自習利用群	4	1	—	5
閲覧利用群	12	8	2	22
貸出利用群	12	1	5	18
計	28	10	7	45

IV 企画を好む傾向

「だより」の編集方針は「新着案内」「利用案内」「企画もの」の三本柱ですが、「とくに読んだ内容」ではやや企画ものを好む傾向にあるようです。「新着」を「特によむ」と答えた人は20%、「新着プラス企画」は30%「企画」のみは50%でした。具体的な記事の支持率をみたのが表5ですが、「新着」とならんで「思い出の本」が高い支持をうけています。又、古典関係の記事、語学の記事が好まれていることを示しています。

—アンケート調査の結果から—

表5 記事内容別支持率

記事	人数	%
① 新着案内	20	0.44
② 思い出の本	20	0.44
③ 巻頭論文	10	0.24
④ 語楽サロン	7	0.16
⑤ ライブラリー特集	6	0.13
⑥ 古典の窓	5	0.11
⑦ レファレンスコーナー	4	0.09
⑧ エアメール	4	0.09

V 「かたい」イメージ

「だより」のイメージを「おもしろい—つまらない」「かたい—やわらかい」の意味尺度法により分析すると、「おもしろい—つまらない」はほぼ拮抗しているのに対して、「かたい」イメージが60%と「やわらかい」35.6%をはるかに上まわっています。このことから紙面内容の工夫が今後望まれていると言えます。

表6 イメージ分析

A	おもしろい		46.7%
	つまらない		51.1%
B	かたい		60%
	やわらかい		35.6%

VI 効果「80点、？」

「だより」が実際に役立ったと答えた人は全体で80%でした。そのうちわけをみると「だよりの情報をもとに本を利用した」37.8%、「帯出証の交付を受けた」が8.9%となっています。

これを角度を変えて「貸出統計」の最近7年間の推移をみると、すでに2ページの統計からも明らかのように、「だより」発行の年から急速に貸出しがふえていることから、その効果のほどをうかがうことが出来ます。昭和49年度を100とした指数でみると、「だより」発行の初年度は125、2年目の昨年は141と伸びています。

これを分野別にみると、全体として教養関係の分野が専門分野の伸び率を大きく上まわっているのが特徴的です。とくに教養関係では「芸術」の伸びが高く、専門分野では「工学」の伸びが高くなっています。

表7 昭和55年度分野別伸び率

(昭和49年度を100とする)

教養関係の伸び率		専門分野の伸び率	
① 芸術	253%	① 工学	238%
② 総記	247	② 経済	172
③ 歴史	190	③ 社会	158
④ 文学	171	④ 法律	140
⑤ 語学	170	⑤ 産業	129
⑥ 哲学	148	⑥ 自然	103

VII 高まる期待

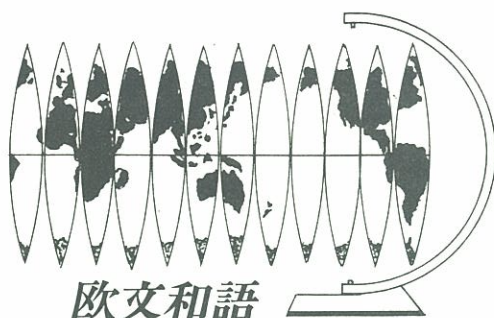
編集方法（発行回数とページ数）では80%の人がほぼ現状でよいとしながらも、内容面では逆に80%の人が新着及び企画の双方を充実させてほしいと望んでいます。このことから「だより」への期待は一層高まっており、ホップ、ステップからジャンプへと大きく飛躍出来るよう大いにがんばりますので、今後ともご声援下さい。



可, 不可

教養部教授

山口修司



欧文和語

(2) GERMAN

「朝、胸苦しい夢から目をさますと、グレゴール・ザムザは、ベットの中で、途方もない一匹の毒虫に姿を変えてしまっていた」(カフカ、「変身」、川村二郎訳)

変身といういささか胡散臭い言葉も、テレビマンガの「ヘンシーン」や、化粧品の宣伝文句などに使われて、親しみやすいものになった。

変身、即ち人間が、他の人間に、或は動物や植物に姿を変えることは、現実には起りえぬ、想像の世界のことではあるが、少くとも古代人や未開人には、変身は、充分信じられる真実であった。そのことは、民話や神話の世界に、変身を扱った話が数多く見られることからわかる。

人は誰でも、自分を変えたいという願いを持っている。自己に対する不満から、別の人間になってみたいと思う。或はわずらわしい人間社会を離れて、動物や植物になりたいと思うひともいるかも知れぬ。勿論、この願望は、現実には満たされるものでないことは、誰もが知っている。従って、せめてその真似事をして、いささかなりとも、満足しようとする。即ち、外観を変えようとする。しかし、外観の変化は、しばしば内面の意識にまで及んでいくから、人間は不思議である。例えば、黒いサングラスをかけると、おとなしい人間も、別人のようにある種の力が湧いてくる。意識の底

に眠っているものが、触発され、表に現われてくるのである。また、逆に、意識の強さが、外観を変える場合も起る。動物を、例えばカバを可愛いがり、カバの身になって世話していると、顔が、カバに似てくるという。

このように、内面と外面は、深く結びつき、互いに規定し合うものであるから、変身を願望する場合も、慎重な心構えといったものが必要である。

従って、例えば、「欧文和語」の原稿が書けないからと言って、日溜りで眠っている猫をうらやましがり、猫になりたいなどと、間違っても、願ってはならないのである。願望の強さは、現実感を奪う。原稿を放り出し、猫のようにゴロリと横になったが最後、果して、もとの人間のまゝで目覚めることができるかどうか。仮に、猫になったとして、「吾輩は猫である」と言ったところで、これは二番煎じもいゝところで、第一、人間の時に原稿の書けぬものが、猫になって、書ける道理がない。となれば、猫になりたいなどという願いは、さっさとすてて、埋めなければならぬ原稿用紙の柀目の数でも数えながら、原稿の遅れる言い訳をあれこれ考えた方がましということになる。

現在、新しい訳によるカフカ全集が、新潮社から刊行中である。

(やまぐち しゅうじ・ドイツ文学)

キーワード

ストレッチ体操

ストレッチ (Stretch) とは引き伸ばす、引っぱる等の意味があります。

いままでの柔軟体操に変わるあたらしい準備運動として、アメリカで一躍脚光をあび、最近日本でも各種スポーツでとり入れられています。

からだの筋肉をじわじわと、ゆっくり伸ばし痛みを感じない程度で静止し、10~30秒ぐらいその姿勢を保ちます。その間呼吸は自然に出来る状態でなければなりません。筋肉がほぐれ、血行がよ

くなり、からだ全体のバランスが良くなります。

跳んだり、はねたり、急激に伸ばしたりしないのがこの運動の特徴です。

スポーツによるケガの予防、健康法としても最適です。

一文献一

ストレッチ体操	安田矩明他 (大修館書店)
トレーニング・	vol.2 No.11 (通13号) 1980.11.
ジャーナル	vol.3 No.3 (通17号) 1981. 3.
陸上競技	vol.13No.12 1979.12.
一月刊一	vol.14No.1 1980. 1.



孤独な支配者——

バイエルン国王について!

坂下 恵理子

時は19世紀後半。僅か18才で即位した気儘で世間知らずの国王—ルードヴィヒ二世(Ludwig II)—は、優美なお城のトップに上げられているノイシュバンシュタイン城を建てた(1886年)。本学生協喫茶に掲げられている大きなお城の写真がそれである。美しいそのお城のデザインと景観からは正に御伽の国の王子様でも想像されようが、実はその背景には、謎に包まれた孤独の王の姿があり、悲哀観さえ漂っている。

彼自身にスポットを当ててみると、一説によると、“国王らしからぬ国王、最も人間的な王であった”と言われており、内気で神経質、そしてこよなく芸術を愛した芸術家であった。彼は、父子ほども年の離れた偉大な芸術家ワグナーに師事し、また友人と称し莫大な経済的援助を与えたが、結局、利用されたにすぎなかった。幼さゆえの純真さを持っていた為か、人間とは辛い試練を乗り越

えて成長していくものであるが、彼は立ち上がる事ができない人間であった。

心を分かちあう友人を持たないルードヴィヒは、次第に孤独に自己の殻に閉じ籠もってしまい、縦とも言える立振舞、独善的な人間となっていつてしまったのである。

その後、彼は彼の医師と共に湖で死人として発見されるに至った。それは、自殺とも他殺とも言われ、知る人もなく謎に包まれている。

歴史上では大きく取沙汰されていないが、ビスマルクがドイツ国家を統一する以前に存在した南ドイツのバイエルン王国、そしてその最後の王とも言われるルードヴィヒ二世、彼を考える時、国王と云う存在よりも、一人の人間の生き様を考えさせられ、そして何よりも孤独と云うものの恐ろしさを実感せざるを得ない。

(昭和55年度卒業)



北京の四季

経済学部助教授

西川 博 史

北京の春は三月にやってくる。三月半ばころになると寒気が緩み、草木が芽をふきはじめる。しかし砂まじりの強風が吹くのもこのころである。“黄沙”という蒙古あたりから吹いてくる東風は北京の空を土色に染める。ほんとうにびっくりする。四月に入ると、玉蘭(もくれん)の純白な花が咲きほころぶ。その花が淡い赤味を帯びるころには、桃の花がいっせいにその蕾を開き、春風に舞う花吹雪が道路一面を覆うころ、ライラックや海棠(かいどう)など色とりどりの花々が満開になる。街路樹の白楊(ポプラ)、洋槐(あかしや)、柳は新緑の葉をつける。こうした移りかわりが、四月の中頃から二~三週間のうちにおこなわれるのである。一見、吹雪かと思わせるような柳絮が舞いあがる頃には、北京の春も終る。

中国の人々は、五月一日を“衣替え”の日としている。暑かろうが寒かろうが、この日に冬の衣服“綿入れ”を脱ぐのである。明かるい陽光が部屋いっぱいさしこむようになったなあと、思ったらもう夏の太陽である。五月二十日ころにはもうプールが開かれる。

毎日、三十五、六度以上の暑い夏が六・七・

八・九と四ヶ月間も続く。しかし、湿気は全くないから蒸し暑いという感じはしない。暑がるしくて眠れないという日は、あっても二・三日で、日中など、木陰や日陰に入ると十分暑さをしのぐことができる。汗でべっとなりになるということはほとんどないのである。しかし、真夜中まで鳴き続けるセミの鳴き声には、一・二度神経をすりへらしたことがある。

九月の中旬を過ぎると青い空があらわれる。深いどこまでも続くまっ青な西の空が、夕焼でまっ赤になるのもこのころである。だが、北京の秋は短い。十一月になるとどんよりとした曇った日が日々、増えはじめ、冬が始まる。シベリアからの冷たい空っ風が吹き、雪の降らない凍てつくような冬である。人々は何枚もの“綿入れ”を着こむ。木々はすっかり裸になり、何もかもが深い眠りに入り込むような厳冬が北京の冬である。

(にしかわ ひろし・日本経済論)





ホームズ著『英米法論』 (Oliver Wendel Holmes, The Common Law, 1881)

出版100周年によせて

法学部教授 菅原勝伴

「法の生命は、論理ではなく、経験であった」とは、本書巻頭の有名な一句である。わたしは学生時代に、ホームズを師と仰ぐ「プラグマティズム法学」の代表者パウンドの原書講読ゼミに参加した折、初めて本書に接したが、そのときは全く歯がたたないで退散したことを覚えている。古代のギリシャ・ローマ法に遡り、全篇イギリスの古い判例を駆使して民・刑両法分野にわたる判例法史論を展開した難物であったからである。しかし、「プラグマティズム法学」を生み出し、ひいてはそれを批判して登場した「リアリズム法学」からもバイブルと仰がれた本書に、よくはわからぬまま、何か強く引かれるものがあった。後年古本屋(札幌)で偶然にも本書を入手できたときの感激は、今にして忘れ難い。

ホームズは、父(ハーバード大学医学部教授・文学者)の軽蔑と反対を押し切って法学の道に進んだが、当時の法学教育や判例には深い失望を味わった。財産権の自由と絶対をうたった「永遠不変の自然法」論を金科玉条とし、その論理的な分析と展開だけに終始して、時代の要請には一向に無頓着であったからである。卒業後、弁護士となったホームズは、のちにプラグマティズム哲学の代表者とされたジェームズらと研究会を組織して、当時の思想界一般の形而上学的な傾向を批判し、

社会の現実を直視して新しい問題を汲みあげよ、と主張した。

やがて母校のハーバード大学で法学の講義を担当する傍ら、法学雑誌の編集と論文の執筆に精力を注いだ。そのねらいは、当時の法学・法界に覚醒を促がすことであった。本書は、それらを集大成したものである。冒頭の一句に結晶したその論旨は、時代の要請にもとづく法の歴史的な変化を実証し、今や新たな時代の要請に答えて新たな法を生み出すべきだと主張するにあった。本書は、出版当初いくつかの大学図書館で購入を拒否された程の厳しい「批判の書」であった。ホームズは、本書によってただちに母校の教授に招かれたが、すぐ裁判官に転じ、やがて合衆国最高裁判所判事に任命されて90才までの約30年間、ルーズベルト大統領のニューディール政策を支持する少数意見を書くことで有名となり、「偉大な少数意見者」と称えられて国民的英雄となり、その「ホームズ信仰」は今なお消えていないといわれる。

先頃わたしは、畏友から本書の共訳を求められたが、話はやがて立ち消えとなった。この名だたる名著の翻訳に、二の足を踏んだからである。数か国語を下らない翻訳のある本書に、いまだ邦訳はない。読者とともに、その出現を待望したいものである。

(すがわら かつとも・民法)



編集後記

いよいよ夏らしくなり海、山へと出かける絶好の季節となりました。新入生の皆さんにとっては初めての長い夏休みがもう少しでやって来ますね。夏休みには大いに遊び、大いに読書することをおすすめします。

この号は、昭和55年度図書館利用状況と先日「図書館だより」アンケート調査を行った結果を詳細に分析して載せています。「図書館だより」が幅広くお読みいただけるよう願っています。

次の要領で「図書館だより」の原稿を募集します。対象は本学学生です。
①募集人員2名 ②内容、日頃図書館を利用したり、今までに読んだ図書のご感想等 ③字数は750~800以内で所定の原稿用紙が備えつけてあります。切りは9月10日です。

北海学園大学附属図書館報「図書館だより」Vol. 3 No. 2 (通巻78号) 1981年7月1日発行
北海学園大学附属図書館発行 062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 電話 011-841-1161 (代表)
内線、総務係 272 整理係 273 閲覧係 274~275
工学部分室 064 札幌市中央区南26条西11丁目 電話 011-561-2911 (内線 64)